

## 2020 年度第 2 回 SPring-8 ユーザー協同体評議員会 議事録

日時：2020 年 9 月 15 日(火) 10 時 30 分～11 時 30 分

場所：WebTV 会議

出席者：木村昭夫 (SPRUC 会長)、足立伸一、雨宮健太、内海渉、岡島敏浩、北村祐二、黒岡和巳、坂田修身、鈴木孝尚、田中義人、宮川篤、水木純一郎、林和志、朝倉清高、有馬孝尚、片山芳則、岸本浩通、北川宏、久米卓志、中川敦史、原田慈久、藤原明比古、三田一樹 (以上、評議員)

米田仁紀、本間穂高、兒玉了祐、横谷尚睦、西堀英治、大和田謙二、今泉公夫、三村功次郎、久保田佳基、藤原秀紀、松下智裕 (以上、幹事)

坂川琢磨 (SPRUC 事務局)

山口章、櫻井吉晴、大端通、木下豊彦、久保田康成、伊藤博幸 (以上、オブザーバー)

- 1) 議事に先立って木村会長より挨拶があった。オンラインによる SPring-8 シンポジウムの準備状況を鑑み、今回の議事進行を横谷行事幹事が行う旨の説明があった。

### 議題

- 1) 木村会長より資料 1 に基づいて 2020 年度 SPRUC 評議員および SPRUC 組織に関する説明が行われた。特に利用委員会では分野融合に関する更なる展開が重要であること、そのため新規に設置された SPB がどう関わっていくか議論を進めていく必要があるなど簡単な説明があった。
- 2) 横谷行事幹事から第 1 回評議員会議事録 (資料 2 および別添資料, メール審議 2 回分) の確認があり、評議員等から質問等はなかった。

### 報告事項

- 1) 西堀行事幹事より資料 3 に基づいて「SPring-8 シンポジウム 2020～ポスト・コロナ時代の SPring-8 利用～」の開催日程 (本年は 9 月 18 日(金) の 1 日開催) や開催趣旨、実施体制 (組織委員会、プログラム委員会、実行委員会)、プログラムに関する説明があった。なおオンライン開催のため、大半の実行委員は SPRUC の幹事が務めることも報告された。
- 2) 西堀行事幹事より資料 4 に基づいて YSA 選考委員会報告があり、6 件の応募の中から大坂泰斗氏、謝龍剣氏の 2 名を受賞者として選考したことが受賞理由と併せて述べられた。SPring-8 シンポジウムでの受賞講演は 1 件が現地、1 件がオンラインで行われる。
- 3) 木村会長より第 9 回代表機関会議が 10 月 1 日(木) 15:00~16:00 に開催予定であることが報告された。従来は SPring-8 シンポジウム開催時に行われるが、シンポジウムが Web 開催になったことを受けて、シンポジウム開催後日に WebTV 会議にて開催するとの説明があった。

- 4) 大和田行事幹事より第4回 SPring-8 秋の学校の準備状況について報告があった(資料6)。開催時期は通常より少し遅い12月20日(日)~23日(水)。  
各研究会に講師を依頼している段階にあり、9月14日の時点で7研究会から講師派遣の通知あり。さらに講師を増やす作業を行い、10月4,5日以降にオンラインによる登録を開始予定である。また今回は収納部の見学を無くす代わりに企業利用相談会を設けることで、社会人が支払う参加費に対して差別化を図ることを考えている。大和田行事幹事より、秋の学校は12月開催であるが、万が一中止の決定を下す場合(アナウンスのタイミングも含)に SPRUC 側としてどういう対応をするか協議して欲しいとの依頼があった。木村会長から9月後半から10月に掛けて幹事会を開催し、その場で意見集約・決定をしたいと回答があった。
- 5) 久保田会計幹事より資料7-8に基づき2020年度 SPRUC 全体会計報告があり、第1回評議員会で承認されたものに対する変更点が報告された。変更点は SPring-8 シンポジウムのオンライン開催に関して機器をレンタルすること、当日のオペレーションを外注することによる費用分(約50万円)であり、JASRI と SPRUC で折半するとの説明があった。その費用は予備費からシンポジウム関係支出に移動させて対応すること、また旅費の確定分に伴い若干の予算圧縮があることが説明された。
- 6) 田中利用委員長より第5期研究会設置状況について資料9により説明が行われた。第5期は継続28(うち名称変更2)、新規4、廃止1で計32の研究会で構成される。
- 7) 田中利用委員長より2020年度研究会開催申請と動向調査項目について説明があった(資料8)。研究会開催申請については昨年度の内容をほぼ踏襲する。動向調査報告における重点項目について、R1年度までの3項目に「4) 危機管理対策に関する事項」が加えられていることが説明された。
- 8) SPRUC 研究会開催状況について報告があった(資料9)。今年度上期の状況から開催数は少ないが、すでに2研究会が開催済みであること、加えて2件が開催予定であるとの説明があった。また SPRUC が開催する講演会・講習会について、JASRI が主催する SPring-8 先端利用技術ワークショップとの共同開催を斡旋しているとの説明があった(配布資料29ページ)。本ワークショップでは講師旅費(SPRUC 非会員に限る)や会場費等共同開催として JASRI から負担可能であることも説明された。
- 9) 木村会長より次期評議員選挙について説明が行われた(資料10)。

#### 懇談事項

- 1) 木村会長より分野融合型研究グループと Science Promotion Board (SPB) に関する説明が行われた(資料11)。分野融合型研究活動(4分野)の経緯や、JASRI にて創設された新分野創生利用課題に2分野から各計8期に渡る利用研究が行われてきたことが説明された。  
2020A 期で分野融合型研究グループによる新分野創生課題が終了し、新しい課題が出てこない点が問題視されている。この点について課題に対する敷居の高さを指摘されており、課題名称が「新分野創生利用課題」から「新分野開拓利用課題」へ変更されている点が説明された。

この様な中、SPring-8 の研究活性化・成果最大化の実現を目指すため、昨年度末に SPRUC 利用委員会の下に設立された SPB の設立経緯が説明された。そして今後 SPB を SPRUC の機能としてどの様に取り入れていくかについて継続して議論を行っていただきたいと木村会長より依頼があった。

水木前会長より SPB の位置づけが明確化されない限り活動指針が見えてこないという点を踏まえながら議論を行っていただきたいとの補足説明があった。

原田評議員より SPB としての出口戦略 (ゴールは何か) を明確にした方が良いだろうという意見があった。これに対して、木村会長からは分野融合の方で成果発表が行われることで、SPB の役割も明確化されるだろうと意見が述べられた。また田中利用委員長から、分野融合型研究の 2 グループが新分野創生利用課題を実施し、研究会を発足させた点は分野融合が結実した形が成果として見えていると考えて良いだろうとの意見が述べられた。

### 連絡事項

- 1) 事務局より今後のスケジュール (資料 12) の確認が行われた。

### その他

- 1) 木下利用推進部長より、1 月に開催される放射光学会がオンライン開催になったのであれば、評議員会・特別総会の開催方法を考える必要があるだろうとの意見が述べられた。JASRI では SPring-8 シンポジウムの為に 1000 人規模のオンライン契約 (1 年契約) を行っており、評議員会・特別総会をオンラインで行うことになった場合は声を掛けていただければ対応は可能であるとの補足もあった。
- 2) 木下利用促進部長より、秋の学校の開催判断について夏の学校が開催された時系列を理解しながら SPRUC として議論を行って欲しいとの依頼があった。

以 上